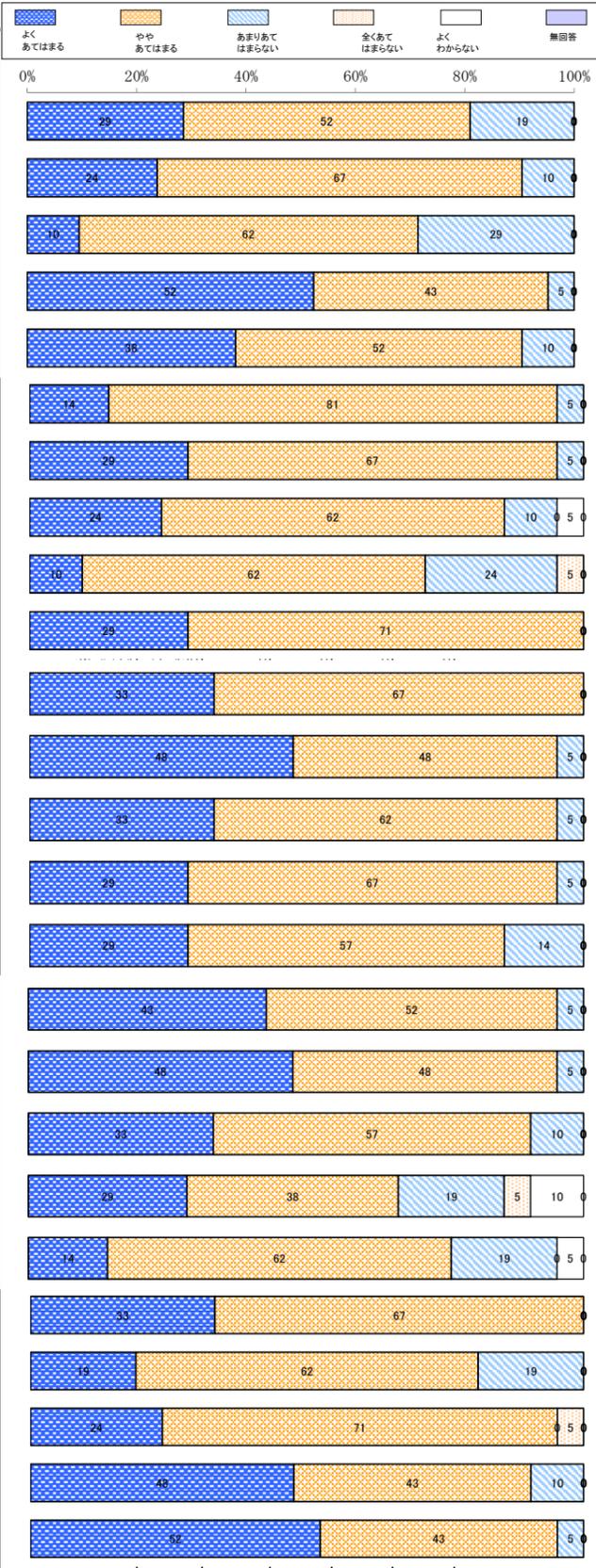


令和元年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立大門小学校

		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
				A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1 教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	40	37	14	4	5	0	
	2 児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	63	22	9	5	1	0	
	3 基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	36	45	13	3	2	0	
	4 児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	39	32	16	7	6	0	
	5 健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	52	25	11	6	5	0	
学力向上の取組	6 分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	47	32	10	6	5	0	
	7 個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	60	22	11	5	2	0	
	8 学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	61	21	11	5	2	0	
	9 情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	33	15	13	33	5	0	
	10 学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	59	22	7	6	4	1	
社会性・人間性の育成	11 人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	57	27	10	3	2	0	
	12 道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	43	29	19	5	4	0	
	13 教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	51	21	14	10	5	0	
	14 人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	73	16	5	3	3	0	
	15 自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	48	31	14	2	5	0	
保護者・地域との連携	16 情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	32	17	11	8	29	2	
	17 相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	49	26	8	8	9	0	
	18 学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	61	22	6	4	7	0	
	19 地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	43	26	16	9	5	0	
	20 意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	48	24	10	5	14	0	
各学校の特色ある教育	21 確かな学力の定着	放課後の学習や家庭学習の取り組みを通して、児童の確かな学力の定着のための指導を行っている。	40	28	20	7	5	0	
	22 規範意識の向上	周りに流されず、自ら判断して望ましい言動ができるように継続した指導を行っている。	33	40	12	5	9	1	
	23 集団活動の充実	自己の役割を自覚し、仲間と協力できるような集団活動の充実を図っている。	41	30	13	7	9	0	
	24 安全意識の向上	危険を察し、回避し、児童が安全な生活を送ることができるように指導を行っている。	57	25	11	3	4	0	
	25 健康・体力の向上	食育や体育の指導を通して、児童の心と体の健康・体力の向上のための指導を行っている。	51	29	11	4	5	0	



学校の自己評価（考察）	
教育目標に沿って教育活動が行われていることがよく分かる反面、教育目標の理解が伝わり切れていない面がある。	
大門小の児童は、明るく楽しそうに生活している姿が多く、とても良いと感じている。	
学校へ来た際、積極的に挨拶する児童や言葉遣いなど改善点が感じられた。	
授業参観など先生方の丁寧な指導が伺えるものさらなる個別指導が必要である。	
避難訓練、引き取り訓練の工夫が必要である。	
少人数での授業を行っているが、苦手な教科のサポートをさらに行う必要がある。	
習熟度別学習での授業の成果が出始めている。引き続き工夫していく。	
学習習慣を定着させるためには、個人（能力差）に応じた課題での対応が必要不可欠である。	
まだまだ、ICT機器の活用が不十分である。	
読書にも力を入れている成果が数字に反映されている。また、辞書なども十分揃っている環境である。	
「人権感覚」を高める学習は効果が出ている。	
「特別の教科 道徳」になりさらに一層授業を充実させる必要がある。	
SCや外部機関と協力し、教育相談を充実させていく。	
きょうだい班などの活動を改善し、継続して続けていく。	
学級活動、児童会活動を工夫し、児童の自主的な活動を促していく。	
学校だより、ホームページ等を通して、保護者、地域に積極的に情報を発信していく。	
引き続き、保護者、児童の個別対応を丁寧に行っていく。	
保護者の参加をもっと増やすような工夫を考えなければならないと感じる。	
以前に比べると地域行事への小学生の保護者の参加が減ってきている中、学校として協力できることを考えていく。	
意見や要望はどのように解決していったか等必ず発信をしていくようにする。	
少しずつ成果が出ている。引き続き校内研究を充実し、授業改善に取り組む。	
児童自身に満足感が下がっている。学級指導を充実していく。	
行事などの取組に対する満足感が低い児童も存在する。特別活動の行事の在り方を考えていく。	
自ら安全に気を付けることを児童自身に感じさせる指導を行ってきたい。	
休み時間など元気に外遊びをしている。持久走大会等継続していきたい。	

無効票を除く(%)